

東京工業大学 博士文系教養科目第2回講演会 「精密工作機械を支える-きさげ」

2018年度第1Qの博士後期課程文系教養科目では、持続的な社会に必要な重要な視点として「技術・文化の継承」をテーマとして取り上げ、世界に誇れる日本の技術・文化を支える各分野の専門家による講演会を開催します。今回、最新の自動制御工作機械など、高精度な工作機械の製造に欠かせない「きさげ」加工について厚生労働大臣が表彰する卓越した技能者（現代の名工）による講演です。



石橋一明氏

DMG 森精機株式会社ターニングセンター基本精度課課長

講演者の紹介：金属面を手作業で削り出す「きさげ作業」をはじめ、工作機械の精度にとって非常に重要な工程を監督している。長年の知識や経験を活かし、機械修理や新機種開発にも関わる。2011年6月に立ち上げた「摺り合わせ道場」は現在までに163名が受講しており、若手社員の育成にも力を入れている。

2007年 高度熟練技能者（一般機械器具製造関係分野）、2014年 現代の名工（金属工作機械組立工・調整工）、2016年 黄綬褒章（金属工作組立工）

「きさげ作業」：金属加工機械の組み立てにおいて、部品の接触面・摺動面を手で持った刃具で削り、0.001mm以下の精度で平面に仕上げる(厚生労働省『平成26年度卓越した技能者の表彰被表彰者名簿』11頁)

日時：2018年6月2日(土曜) 10時45分から

場所：大岡山西9号館2階デジタル多目的ホール

無料：主な対象は本学学生、教職員

博士教養科目第1Q履修者以外の方は、当日受付で学生証等のご提示をお願いします。（日本語による講演。解説等に一部英語が含まれます。）

2018年第1Q博士後期課程文系教養科目
問い合わせ担当：金子宏直(リベラルアーツ研究教育院)
kaneko.h.ad-2018-kouen(@)ml.m.titech.ac.jp
文系教養科目事務(ext.3776)